

②文化財活用事業の状況について

資料2

事業名	開催時期	内容	参加数
(1)子ども考古学教室	4/18～10/24	鳥取市内の小学校31校に訪問し、地域の文化財を学習。更に、火起こし・勾玉づくりを体験	1,275人
(2)梶山古墳壁画一般公開	9/30～10/2	年1回の石室・壁画の一般公開	351人
(3)万葉のふるさと国府ぐるっと発見バスツアー (栃本廃寺完成前の特別公開)	10月1日	国府の歴史的名所をめぐり、史跡内で伝統芸能を見学した1日バスツアー	48人 (30人)
(4)小和田哲男先生講演会&トークショー	10月7日	大河ドラマの時代考証でも有名な静岡大学名誉教授の小和田先生が、鳥取城の兵糧攻めについてわかり易く講演	270人
(5)旧美敷水源地水道施設の特別公開	10月22日	年1回の水道施設の特別公開	121人

(1)子ども考古学教室



(内訳)

- ・勾玉12校 ……………748人
- ・火おこし16校 ……504人
- ・ガラス玉づくり1校…23人

①職員による授業の様子
(土器などを使って…)



②火おこし体験授業の様子
(遷喬小学校親子会)

(1)子ども考古学教室



③火がおこせて満面の笑顔
(遷喬小学校親子会)



④職員による授業の様子(勾玉づくり…日進小学校)

◎アンケート結果を受けての成果・課題

- ・(成果) 身近な地域で見つかった土器等に触れたり、火をおこし体験を通して郷土の歴史に対する理解を深めることができた。
- ・(課題) 平成23年度は31校であったが、来年度は、学校数を増やせるよう内容の充実を図って行きたい。

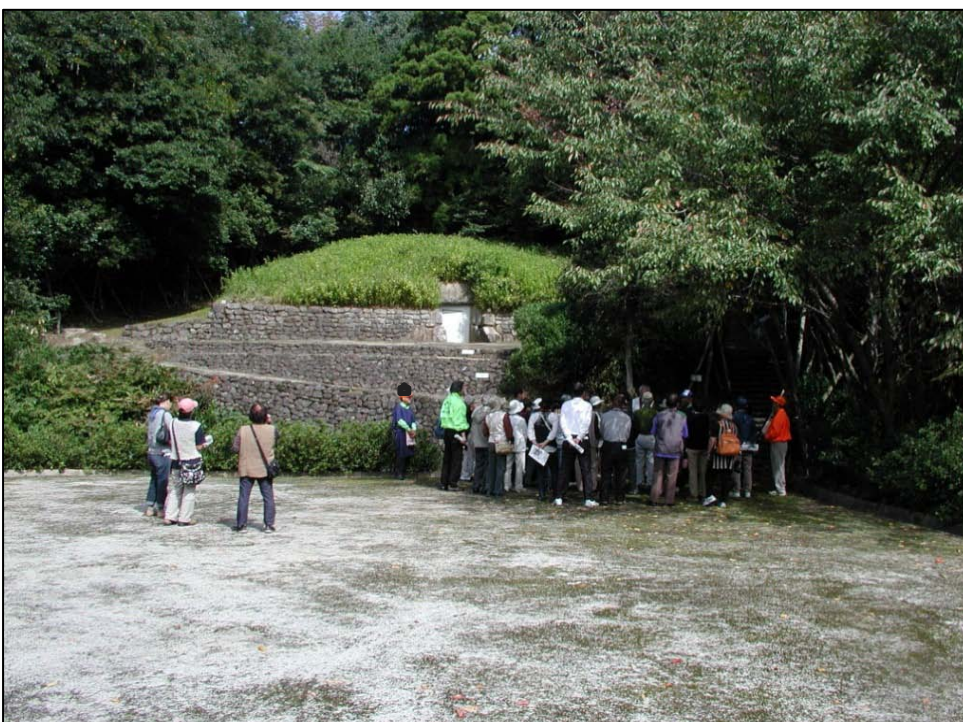
(2) 梶山古墳壁画一般公開
(3) 万葉のふるさと国府ぐるっと発見バスツアー

《コース》

市役所本庁発・鳥取駅南口 → ①鳥取藩主池田家墓所 → 旧美歎水源地水道施設 →
因幡万葉歴史館(万葉の館で昼食) → ②梶山古墳 → 長通寺(ふすま絵) →
→ 車窓から殿ダム展望 → ③枳本麿寺(因幡の傘踊り見学) → 鳥取駅南口・市役所本庁着



①鳥取藩主池田家墓所で…バス添乗スタッフはツアー旗・万葉衣装で活躍)



②梶山古墳広場の様子…巻頭衣を着た解説員の説明を聞きながら古代へ～

(2) 梶山古墳壁画一般公開

(3) 万葉のふるさと国府ぐるっと発見バスツアー



③-1 栃本廃寺跡 東塔前で勇壮華麗な因幡の傘踊りを堪能)



③-2 栃本廃寺跡 復元した講堂前で解説中

◎アンケート結果を受けての成果・課題

- ・(成果) 大変好評で来年も企画して欲しいとの要望があった。また、定員30人(バス1台)が大幅に増えたため、バス2台のツアーとなった。
ガイドクラブの実地の研修の場となっており、お互いに相乗効果を発揮している。
- ・(課題) 今回の取り組みを来年度も継続させ、他地域の文化財と連携させた活用事業の展開をする必要がある。また、地域住民が地元の文化財に誇りを持っていただき将来は、住民主導の活動ができるよう、意識の高揚を図って行く。

(4)小和田哲男先生講演会&トークショー



①鳥取城の兵糧攻めについて熱く講演されています(県立博物館講堂)



②立ち聴講も出るほど、超満員の会場の様子(県立博物館講堂)

(4)小和田哲男先生講演会&トークショー



③小和田先生と、歴史好きアイドル 小日向えりさんが鳥取城の魅力について熱く語っています

◎アンケート結果を受けての成果・課題

・(成果)

- ・単独開催ではなく、鳥取市観光協会を事務局とする第12回鳥取32万石お城祭り実行委員会の協力を得て、第12回鳥取32万石お城祭りにおけるメインイベントの一つとして開催したことで、相乗効果によって定員(250名)を超える来場者を達成した。
- ・鳥取城の学術的な価値の高さを市民に知って頂くことができた。

・(課題)

- ・市内には、鳥取城や城主であった鳥取池田家などの関連文化財が多数所在しているが、それらを連携させた活用事業の展開をする必要がある。

(5)旧美敷水源地水道施設の特別公開



①旧美敷水源地水道施設特別公開 遠景(右端の覆屋から順に…2号ろ過池・1号ろ過池・公開用のテント)



②特別公開の様子(柵に掛けられた手作りの説明書きも人気でした)

(5)旧美歎水源地水道施設の特別公開



③特別公開恒例の物販・休憩所の様子…参加者と、地元の人との和やかな交流の場です

◎アンケート結果を受けての成果・課題

・(成果)

普段見ることが出来ない文化財を、国府ガイドクラブや美歎活性化協議会会員による分かりやすい説明で参加者に見ていただき、美歎水源地の歴史や文化財的価値を知っていただくことができた。

また、美歎地区活性化協議会の協力による特産品の販売などもあり、地域の活性化につながるイベントとして開催することができた。

・(課題)

旧美歎水源地水道施設を今後、管理・活用していく上で地元の協力は必要不可欠であり、公開方法やイベントの開催などの利活用について、地元美歎地区とより深く関わり合い、具体的に検討していく時期にある。

今後、美歎地区住民に美歎水源地に対する思いや考え方を聞くアンケート調査を行い、より良い管理・利活用の方法を検討していくこととしている。

